

まちかどトーク（成美地区）議事要旨

日時：令和8年2月12日（木）19:00～20:35

場所：成美地域交流センター

参加者：47人

1 市長あいさつ

2 市政に関する説明

「空き家対策」について建築政策課から説明の後、質疑応答

参加者

御旅屋セリオに移転した（公財）高岡地域地場産業センターの跡地等の活用について、今後の見通しは。

市長

跡地等を活用する事業者を選定したところであり、今後は地元説明会の開催も予定している。

参加者

空き家の所有者に責任を持ってもらうため、固定資産税の優遇措置をなくすことはできないか。

建築政策課

令和5年に空き家対策特別措置法が改正され、「特定空家等」や「管理不全空家等」に対して勧告した場合、固定資産税の優遇措置を解除できるようになった。これにより、税金を理由に解体をためらうケースを防ぐことが期待できる。

参加者

生活に困窮して住居に困っている人と空き家をマッチングしてはどうか。

市営住宅の老朽化が進んでいるのであれば、空き家を改修して活用する方が現実的では。

建築政策課

固定資産税の納税通知書を送付する際に、空き家の売却等を促すチラシを同封している。このチラシの中で、空き家バンクへの登録を促しており、住宅でお困りの方と空き家が上手くマッチングできるよう相談に応じている。

市長

国もDV被害者や高齢者など住宅確保が困難な方と空き家をマッチングさせる取組を推奨している。例えば、空き家と住宅困窮者を結びつけ、市営住宅の空室を減らしていくなど、福祉部局と連携して、この問題に取り組む必要があると考えている。

建築政策課

経済的にお困りの方には、市営住宅のストックもあるため、ご相談いただきたい。

参加者

空き家・空き地バンクは、所有者本人が登録手続きする必要があるのか。

市が主導して空き家・空き地のデータベースを構築し、所有者情報を管理することで、

不法な利用や管理放棄を抑制できるのでは。

建築政策課

空き家バンクへの登録手続きは、所有者等が行う。

所有者情報をデータベース化した場合、個人情報にあたるため、一般に公開することはできない。空き家については、個別に相談いただければ、所有者に適切な指導を行いたい。

参加者

空き家に関する事業について、市民にもっと分かりやすく周知するための取組は。

建築政策課

毎年、市の広報紙に掲載しているほか、市公式ホームページやケーブルテレビでも制度を周知している。引き続き、より分かりやすい広報の方法を検討していきたい。

参加者

市役所 1 階のデジタルサイネージに、キャッチフレーズや「詳しくはホームページで」といった簡単な案内を流してはどうか。

参加者

土地と建物の所有者が異なるような特殊な事情の空き家についての実態調査が必要だと思う。画一的な制度では対応できない地域ごとの空き家事情に対し、どのように取り組んでいくのか。

市長

「空き家活用推進協議会」など、きめ細かな活動をしている団体があるので、そうした方々と連携していくことが一つの方法だと考える。

まずは来年度に市内の空き家を調査し、どこにどのような問題があるのかを把握した上で、対策を検討していきたい。

参加者

旧市街地は借地が多く、複数の所有者が存在する土地もある。空き家調査をする際には、土地の権利関係についても併せて調査を進めてほしい。

市内で実施されている地籍調査の進捗状況は。

市長

地籍調査は、法務局と市が一部地域で進めているが、非常に予算と時間がかかる事業であり、高岡市全体では、ほとんど着手できていないのが現状である。

3 意見交換

「高岡市人口ピラミッド」を基に、市長より説明の後、意見交換

参加者

定時制・通信制の生徒の半数以上が、小中学校での不登校経験者である。小学校から中学校の年代における教育のあり方が非常に大切ではないかと感じている。この年代の子どもたちに対して、どのような特徴ある教育を実践していく考えか。

市長

不登校の児童生徒が増えており、集団生活が難しい子には、マンツーマンで先生が向き

合う体制も整えるなど、きめ細かい教育を行っている。

来年度以降、専門家が家庭を訪問して相談を受けたり、経済的に困難な状況にあることもたちの家庭に訪問し、どのような解決策があるか一緒に考える、よりきめ細かい支援を予定している。

モデル校を設置し、詰め込み教育だけでなく、自分で課題を見つけ、考え、発表する「探究学習」を小中学校で強化したいと考えている。

参加者

公立大学を設置するという構想の進捗状況は。

市長

来年度予算に研究費を計上しており、本格的な調査の開始を予定している。地元で生まれ育った子どもが都市部へ進学する際の経済的負担を考えると、地元で大学を設置することは、若者の流出に歯止めになると考える。

参加者

公共交通網の活性化に関する施策の進捗状況は。

市長

来年度予算では、昼間の利用者が少ない路線を活用し、利用者の要望に応じてルートを流動的に見直す「AI オンデマンドバス」や高岡駅・新高岡駅間を電気で走る次世代EVバスの試験運行に係る費用を計上している。

交通事業者と意見交換していくなかで、バス路線の運行事業の共同・協業化の可能性を探っているところであり、交通事業者の方々に協力を求めている。